大学院経済学研究科「政策科学シンポジウム」

「雇用問題」をテーマに社会制度設計を提言

大学院経済学研究科が主催する「政策科学シンポジウム」が10月30日、神田キャンパスで開かれ、約30人が出席した。

「雇用をめぐる新たな問題領域―就業支援にどう取り組むのか―」をテーマに、経済学部の4教員が報告を行い、会場からの質疑に応じた。

同シンポジウムは2000年にスタートし、神田キャンパスで計10回実施。1年間の休止をはさみ、11年からは生田・神田両キャンパスで交互に行われる形で再開した。

はじめに原田博夫経済学研究科長が「長期間にわたる日本のデフレは改善されず、むしろ悪化している。今回は雇用・就業の意義を改めて考え、デフレ脱却や雇用創出のヒントを提供したい」と主旨を説明した。

続いて、▽宮嵜晃臣教授「大震災後の日本経済と雇用問題」▽町田俊彦教授「地方分権改革と就業支援の展開」▽鈴木奈穂美准教授「女性の働き方はどう変わるか」▽兵頭淳史教授「労働組合と雇用問題」―の4つの報告が行われた。

最後に、コーディネーターを務めた高橋祐吉教授が「経済成長の土台として雇用がある。欧米では選挙に際し、雇用問題が大きな焦点となるが、日本ではそれほど大きな政治的争点とされてこなかった。現在は就職氷河期で、若者にとっては社会目標が立てづらく、日本社会全体にとっては人材育成の面で問題となってくる。今後は雇用を軸とした社会制度設計を考えていくべきではないか」とまとめた。

▲ 報告する宮嵜教授

▲ 質疑応答するパネリスト

HEIB講座

食品パッケージ開発に学ぶ商品価値の創造 ―

大日本印刷㈱の福岡さんが講演

女子学生が実社会で役立つ実務能力と、資質を磨くことを目的とした第14回HEIB講座が11月20日、生田キャンパスで50人が出席して開催され、大日本印刷㈱包装事業部・企画本部・商品戦略部グループリーダーの福岡直子さんが「食品パッケージの開発～商品価値をどう創造するのか～」と題して講演。商品パッケージの開発という仕事のなかで、どのようにその商品価値を創造していくかを語った。

福岡さんはヒット商品『日清ラ王袋めん』のパッケージ開発を担当。メーカー、生産者、流通それぞれの視点や状況を考え、どんなモノを提供するのがよいか客観できる立場で商品のパッケージ開発に携わってきた。調査・分析に始まり、コンセプト立案、ネーミング、販促活動に至る開発過程にはデザインだけでなく、商品そのものの魅力を伝えるためのクリエーティブ力が重要だという。実際に手がけた食品パッケージが紹介されたほか、メーカーと連携し試行錯誤を重ねて誕生した『日清ラ王袋めん』のパッケージ開発の舞台裏が披露された。

▲ 講演する福岡さん

最後に「生活のすべてをクリエーティブにとらえ、徹底的に観察していろいろなものの価値を見いだす力をつければ仕事が楽しくなり自分自身も魅力的になる」とまとめた。

質疑応答の後、会員を代表して寺尾菜見さん（商2）が「商品パッケージ開発という仕事の内容が分かり、勉強になりました。これからはパッケージを意識しながら商品を購入します」と感想を述べた。

神田キャンパスで「育友会全国支部長会」

今年度2回目となる育友会「全国支部長会」が11月4日、神田キャンパスで開催され、全国各支部の支部長ら167人が出席した。渡邊信会長が議長となり、2012年度支部懇談会の開催結果の報告や今後の支部運営などについての提言、意見交換が行われた。

▲ あいさつする渡邊会長（写真提供＝ジアース教育新社）

フランス革命史料研究センターが国際シンポジウム

文学部・近江教授が報告

本学ベルンシュタイン文庫の価値をあらためて浮き彫りに

11月26日、本学図書館主催による「フランス革命史料研究センター」のミニ-コローク（シンポジウム）が生田キャンパスで開催された。

「ミシェル＝ベルンシュタイン文庫史料の価値とM＝ベルンシュタインの実像―仏側との共同調査研究の成果を踏まえて―」と題して、フランス側からは、J・N＝デュカンジュ・ルーアン大学准教授（「M＝ベルンシュタイン―特異な足跡をふり返って―」）とM＝ビアール・ルーアン大学主任教授（「ベルンシュタイン文庫にみられる革命期の政治結社」）の2人が講演。

本学からは文学部の近江吉明教授が『比較目録』第6、7巻の調査研究結果」を報告した。

デュカンジュ報告では、古書籍収集家としてのベルンシュタインの歩みが、彼自身が語らないところにまで分け入って明らかにされた。未知の部分を残しているとはいえ、彼がフランス革命史関連史料の単なる収集家でなかったことも、各種の証言や史料から浮き彫りにされた。

また、ビアール報告では、ベルンシュタイン文庫（「ベル文」）史料の多様な価値とその活用の方向性が具体的に示された。今回は、「民衆協会」や「憲法友の会」などの政治結社関連史料に限定し、そこから読み取れる史料情報を重視し、「ベル文」運用の今後のあり方として特定テーマでの史料集刊行が大事だと強調した。

さらに、近江報告ではベルンシュタインによって「仏国立図書館には存在しない」とされた1万1660点の史料調査結果が公表された。それによると、近江教授はそのうち4310点（約37%）が仏側で確認できなかっただけで、63%は仏国立など仏各地の公立図書館に所蔵されていることが判明したと結論付けた。

今回のミニ-コロークからは、「ベル文」の〈希少性〉は当初の予想通りではなかったが、4310点について見れば、国立文書館や県・市レベルの文書館などに収蔵されている可能性はあるにしても、一定のテーマでくくられる史料がまとまって存在していることの重要性が明らかになった。

「ベル文」購入から36年目。本学のフランス革命史料研究センターが、ベルンシュタインが整理したTome番号部分の再調査を仏側と協力して終了させ、今回のような国際シンポジウムを開催して、調査の成果を内外に公表したことの意味は大きいといえる。

▶ 左から近江、ビアール、デュカンジュの各氏

▶『「ベル文」比較目録』第6、7巻

経営学部・田口教授の「流通論」―

イオンリテール㈱採用グループマネージャー 天池氏招き講義

田口冬樹経営学部教授の流通論では、流通の仕組みを明らかにし、生産者、卸売業者、小売業者それぞれのマーケティング戦略や流通の役割などを検討することをテーマとしており、理論と実践の融合を図るため、実務家を招いた講義を行っている。

11月8日は、イオンリテール㈱人事部採用グループマネージャー天池志光（ゆき）氏が「総合小売業の歴史と現状および今後の展望」をテーマに、小売業が果たす役割や動向、それに業界が求める人材要件などについて語った。

イオンリテール㈱はGMS（総合スーパー）事業を手がける総合小売企業として国内最大の規模をもつ。天池氏は、消費におけるシニアの影響力やネット消費の市場規模の拡大、アジア小売マーケットの拡大など、社会の変化に対応しながら成長してきたイオンの戦略を紹介。小売業の存在意義については「販売だけでなく、消費者代位機能として産業を動かし〝消費のスタンダード〟を創ることである」と語った。

また、企業が求める人材として「自ら課題を発見し、その解決策を徹底的に考え抜き、実行に移すことができる人」と話し、就職活動に臨む学生に対して「ものごとに主体的にかかわり、何を考え、何を行動し、何を得たか、一つひとつの体験から学び取ることが大事」とアドバイスした。

▲ 天池氏の講義を聴講する学生たち

あなたの身近な、信託パートナー
りそな銀行
RESONA
九段支店
住所：東京都千代田区九段南 1-5-6
電話番号：03-3261-1185

MIZUHO　みずほ信託銀行
Channel to Discovery
信託のちからが、
お客さまの夢をかなえます。
信託のちから、それは
お客さまから「信じて託された」大切な資産を
責任をもって管理・運用し、育てていくちからです。
みずほ信託銀行は
「お客さまから最も信頼される信託銀行」をめざして
信託のちからをフルに発揮します。
ホームページ http://www.mizuho-tb.co.jp/